

北海道浮魚ニュース

平成20(2008)年度13号 (通巻 No. 265)

2008年 8月 25日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

道南太平洋スルメイカ南下期調査結果

道南太平洋の8月下旬のスルメイカ分布密度は浦河沖で高く、魚体サイズは昨年より小さい。

函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：2008年8月18日～22日
- ・調査海域：道南太平洋（函館沖～浦河沖～下北半島東沖）
- ・調査船：金星丸（イカ釣機5台、イカ用集魚灯20灯装備）

昨年（2007年8月20日～24日）及び近5年（2003～2007年）のデータと比較しました。

1. 水温分布

漁獲調査地点4地点のうち、海洋観測を行った3地点の表面水温は18.6～21.3（昨年20.2～22.2）、水深50m層の水温は9.1～13.5（昨年11.8～16.8）でした。昨年との比較では、函館沖 St.16の50m層で昨年を0.3上回りましたが、それ以外では昨年の水温を下回りました（図1、2）。下北半島東沖の St.8 については悪天候のため水温の観測を中止しました。

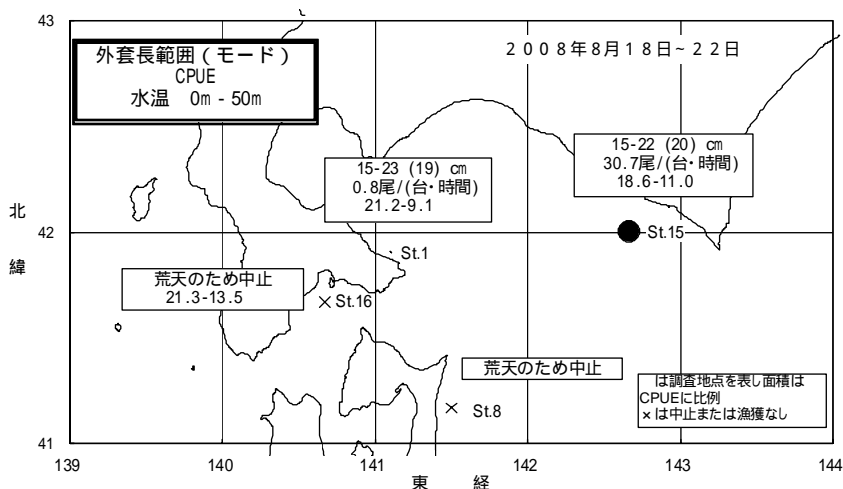


図1 スルメイカ漁場一斉調査結果（道南太平洋2008年8月）

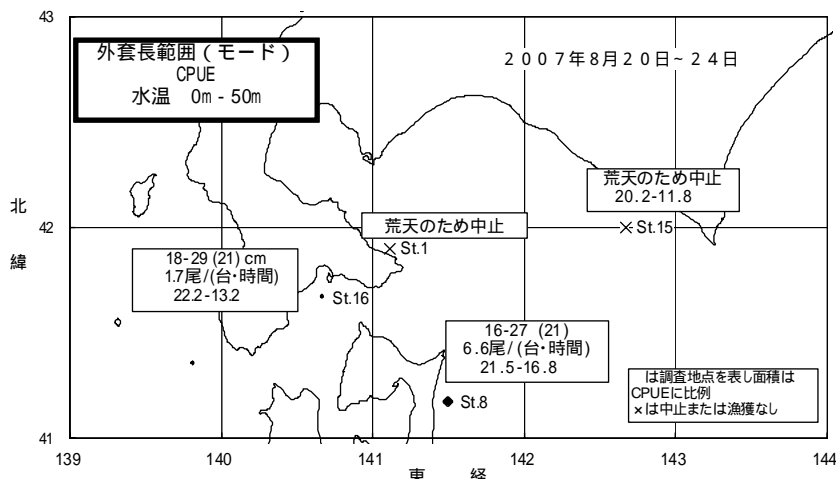


図2 スルメイカ漁場一斉調査結果（道南太平洋2007年8月）

表1 スルメイカ漁場一斉調査（道南太平洋8月）のCPUEと外套長の経年変化

	2003(H15) 8/25-8/29	2004(H16) 8/18-8/26	2005(H17) 8/22-8/26	2006(H18) 8/21-8/25	2007(H19) 8/20-8/24	2008(H20) 8/18-8/22
St.1(木直沖)CPUE	15.9	10.3	3.4	4.7	-	0.8
St.8(下北半島東沖)CPUE	-	24.3	26.7	1.5	6.6	-
St.15(浦河沖)CPUE	49.9	18.8	23.5	2.6	-	30.7
St.16(函館沖)CPUE	3.9	2.3	-	4.6	1.7	-
平均CPUE(尾/台・時間)	23.2	13.9	17.9	3.3	4.1	15.8
外套長の範囲(cm)	12-27	15-26	15-26	12-26	16-29	15-23
外套長モードの範囲(cm)	15,21	20-23	19-20	20-21	21	19-20

2. 分布密度

漁獲調査地点4点のうち、下北半島東沖の St.8 と函館沖の St.16 は悪天候のため調査を中止しました。調査を行った2地点の CPUE（2連式イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数）は、浦河沖の St.15 では 30.7 と 2003 年以降で 2 番目に高い値となり、木直沖の St.1 では 0.8 と 2003 年以降で最も低い値でした（図1、表1）。両地点の平均 CPUE は 15.8 で 2007 年の平均（4.1）を上回り、近5年（2003 年以降）の全調査点の平均との比較では中位の値でした（表1）。

3. スルメイカの大きさ

スルメイカの外套長（胴長）は、調査点全体で 15 ~ 23cm（昨年 16 ~ 29cm）の範囲にありました（図1、3、表1）。調査海域全体の外套長のモード（最も多く漁獲されたイカの大きさ）は 20cm で昨年（21cm）を 1 cm 下回り、全体的な外套長組成も昨年より小型の個体の割合が高くなっていました（図3）。各調査点のモードは、木直沖 St.1 で 19cm、浦河沖 St.15 で 20cm でした（図1）。

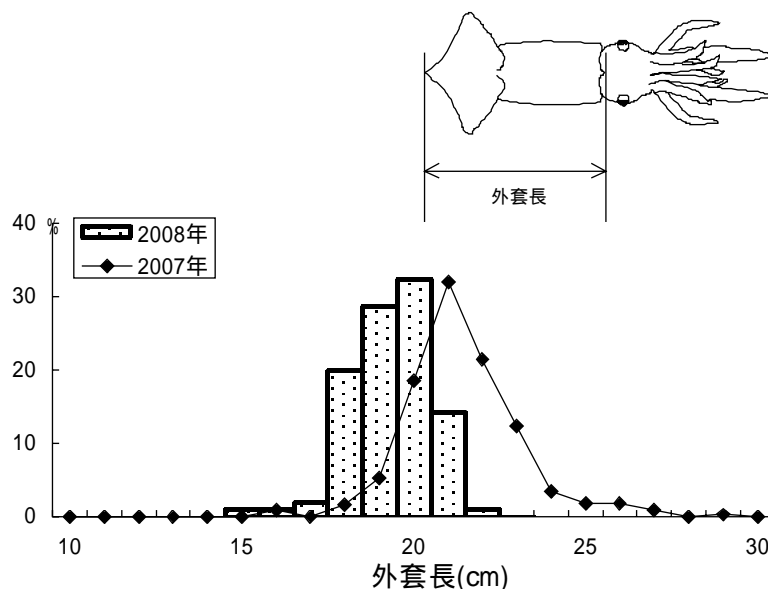


図3 調査海域全体のスルメイカ外套長組成

（文責：函館水産試験場調査研究部、TEL：0138-57-5997 直通、FAX：0138-57-5991）